

サヤインゲンのアズキノメイガの効率的な防除時期

福島県農業総合センター 生産環境部作物保護科

1 部門名

野菜－サヤインゲン－病害虫防除

2 担当者

荒川昭弘・山内富士男

3 要旨

アズキノメイガはフキノメイガの近縁種で、老熟幼虫で越冬する。6月中旬頃に蛹化・羽化してサヤインゲンに産卵し、ふ化した幼虫が食入して加害する。そこで、農業総合センター内ほ場(郡山市)で産卵時期、加害開始時期を調査し、食入前後の殺虫剤散布の効果を比較した。

サヤインゲンへのアズキノメイガの産卵は6月中旬頃から始まる(表1)。一方、幼虫(第1世代)の食入は7月1半旬に始まる(表2)。このことから防除時期は産卵確認後から食入開始前と考えられた。

食入開始の前後にペルメトリン乳剤3000倍を散布して防除効果を調査すると、食入前(7月2日)の散布では散布16日後まで食入がみられなかったのに対して、食入後(7月9日)の散布では散布後も食入痕数は増加した(表3)。

したがって、被害を最小限にとどめるには食入前に散布する必要がある。

なお、本種の防除薬剤はサヤインゲンのフキノメイガ登録のものが使用できる。

表1 サヤインゲンでのアズキノメイガの産卵状況

調査月日	6/3	6/13	6/14	6/17	6/25	7/4
卵塊数	0	0	1.2	6.0	3.2	5.4

18株あたりの卵塊数

表2 サヤインゲンでのアズキノメイガ幼虫の寄生状況

調査月日	6/25	7/2	7/4	7/9
食入痕の確認できた株の割合	0	0	3.3	51.1

90株調査

表3 ペルメトリン乳剤の防除時期と防除効果

処理	処理月日	散布前 卵塊数	散布前 食入痕数	9日後 食入痕数	16日後 食入幼虫数
ペルメトリン乳剤 3000倍	7月2日	0.2	0	0	0
無処理		0.2	0	1.6	7.6
ペルメトリン乳剤 3000倍	7月9日	—	1.0	1.3	—
無処理		—	1.6	10.3	—

—: 調査せず。7月2日処理区は1区1株5連制、9日処理は1区5株3連制。

数値はいずれも1株あたり。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～26年度
- (2) 研究課題名 難防除病害虫の防除技術の開発
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成25年度センター試験成績概要